

# プロうま。

\*03s

無限のフロンティア & スパロボZ  
乳牛姫とセッコたんの本♥

For Adult Only

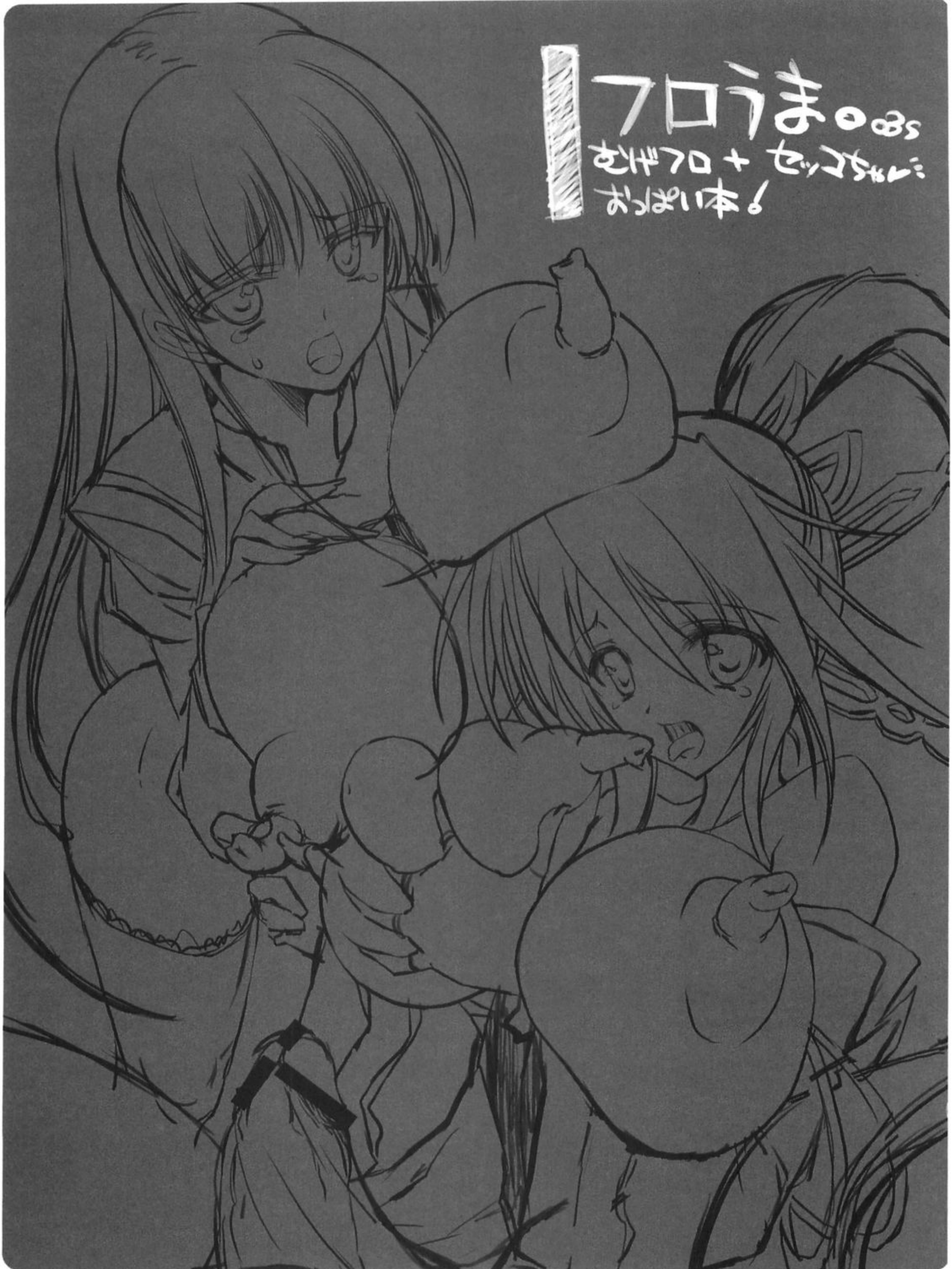


Harth Nir  
since 1999

www.harthnir.com



フロマージュ  
おはよう + セツ子ちゃん  
おはよう!



☺ まえがき ☺

カワバン!! みさくらなんこつともうしまさ~  
はじめましての方よろしくどうぞ、新人です!  
そうじゃない方は... 自分が新人じゃないって  
ことは秘密にしておいてほしいのですよ★キラ★トキラ

無限のフロンティアあっぱい本「フろうま」  
3冊目です~●

むむむ、やっぱりセッコで  
もりあがっちゃいましたのですよ!  
なので急遽 (なると思ってたけど!)  
スピロボZセッコ&むせ70本になりました!  
その分あっぱい大盛りにしといたですよ!  
(ラーメン屋の出前っぽく)  
おんでおんのですくひー ☺



いつもいつも  
個人的な食卓の  
スハロボチーム

私の生命は  
この人たちに  
吸われてるのかも...

セッコたんの  
おはよう  
セッコたんの  
食卓は飯も  
あつたかあ!!??

**セッコたん**  
**112%**  
おはよう

アセッコたん  
サマシロ、  
アセッコたん  
サマシロ、

セッコたん  
ココに住もう!!

セッコたん  
兄ちゃんが  
葉もらてくまかたな!!?

あ...ありがとう  
シゼニます...

フレンドリーな  
フレンドリーな  
フレンドリーな

ひゃ...  
あ...  
ひゃ...  
あ...

それは大変だ  
それは大変だ  
それは大変だ

なんだ私  
ニミの生活に  
なごめなく...



……なるほどね……

……君は  
どうしたいんですか……

……わかりませよ……

……その内体を生かして  
皆を活かし活人の心……  
それって日輪……

全裸……  
かくな……

……バルコニーに乗るなんて  
した……私……

……も……おかし……  
立てた……りかも……

……と……隊長も  
トビーもいなく  
な……た今……

……私……ご……  
……な……

……あ……  
……と……見……

……女……人……大……変……な……す……  
……セ……ク……ス……  
……の……

……お……お……  
……セ……ク……ス……  
……セ……ク……ス……

会キ室

立入禁止





「...後まで...」

「...?」

「...は...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」  
「...」  
「...」  
「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」



私の胸...全部...  
皆に見られてた...!

あ...あ...あ...!!

はわわわわ

わ...わ...  
見られてた...

あ...あ...あ...!!

あ...あ...あ...!!

あ...あ...あ...!!

立派な  
ドミンゴだぜ!!

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...

あ...あ...  
千子のガキ  
見えねえだろガキ!!





おんこーぶいこー!!

まご牛だな

乳牛セミンだ

ブル

ミルクお  
打のニクホ?

ガああ!!

いーいーいー?!

早泳...

んあ!!

たあ

うう

いーいーいー  
たあ!!

うあ!!

あ!!

あああ!!

ううう

あ

あああ

あああ!!

おんこーぶいこー!!

おんこーぶいこー!!

おんこーぶいこー!!

おんこーぶいこー!!









ニヤニヤおもしろい  
二つ目おもしろい  
三つ目おもしろい  
飲みたいよ

おれ、  
男の子が好き

ニヤニヤ  
おもしろい

私も  
いいわ

セツコミック  
おもしろい

母乳飲まれ  
おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい



飲むおっぱい...♡

まるで自分でも飲むよ♡

え

飲むおっぱい...♡

甘い♡

飲むおっぱい...♡

飲むおっぱい...♡

私の母乳...  
おいしい♡  
おいしい♡  
おいしい♡

飲むおっぱい...♡

飲むおっぱい...♡

飲むおっぱい...♡

俺はセッコウオキ  
ミツクもさす  
もんねー

ちやう  
きつきたるー  
ガガ、そんな  
なめさダメス  
ナメス！！

お俺も  
馬鹿あ

お？まだ  
口答へずまだ？

ミツク、アハハハハ  
アハハハハハハ

ああああ  
ああああ  
ああああ  
ああああ  
ああああ

アハハハ



おっほいも♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほいも♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡  
おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

私♡おまき♡  
され♡  
オッパイ♡  
ミルク♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡

おっほい♡  
おさも♡  
あま♡





「まじ...  
男の人って...」

「はあ...」

「はあ...」

「はあ...」

「...ズッ...」

「たの...」

「おめ...」

「この人たちは...  
おっぱいだけじゃ  
まだ満足して  
なかつたの...!？」

「ちゅ...」

「おっぱいは...  
いやあ...」

「70  
523」







「ビスケバにおねだり  
してきたら千代ホ  
入れておませ？」

「おねだり...  
千代ホ...おねだり...  
ビスケバ...」

「ち...千代ホ...」

「...み見て...  
セッコのケツ穴...  
犯されたくてトロボ...  
な...おねだり...  
あ...は...」

「みなさんにオッパイとわき...  
ケツ穴されてオニキノコが  
め...おねだり...」

「前からセッコス...男の人の  
セッコス...味...  
ビスケバにおまニコしたかた...」

「セッコ...  
は...  
...」

「千代ホ...」

「おねだり...  
ビスケバ...」

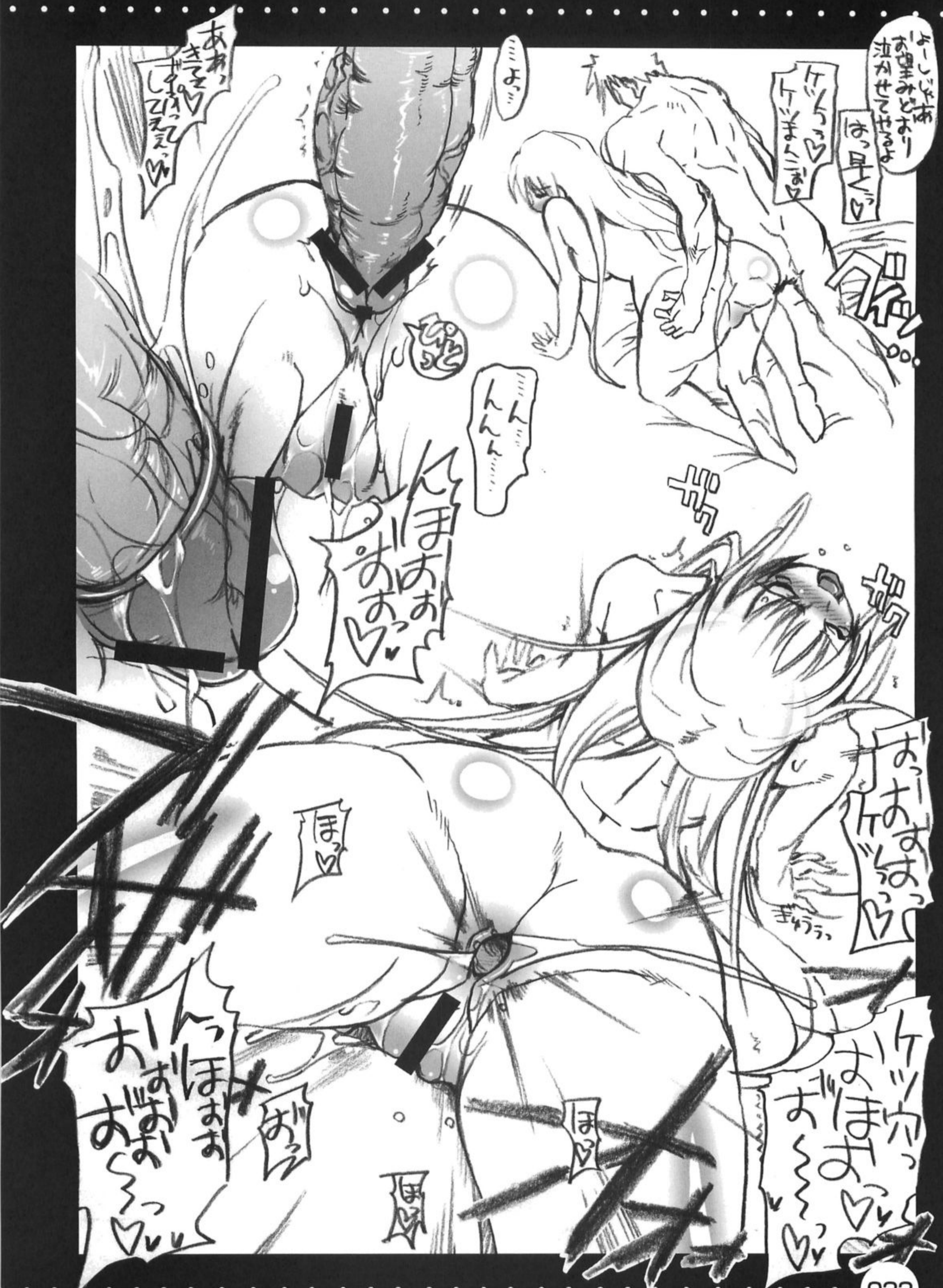
「おねだり...」

「セッコ...  
千代ホ...」

「みんなの千代ホ...  
味...」

「せ...  
泣き...  
...」

「セッコ...  
トロボ...  
...」



あーっ  
お母さん  
お母さん  
お母さん

お母さん  
お母さん

お母さん  
お母さん

お母さん

あーっ  
お母さん  
お母さん

お母さん  
お母さん  
お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん  
お母さん  
お母さん

お母さん

お母さん  
お母さん  
お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん  
お母さん  
お母さん











ININI

へんげんおのち  
千ニホニ最高♡  
んニホニ最高♡

おはハハ

ゴゴゴ

ピカッ

おはハハ

最高♡  
おはハハハ最高♡  
千ニホニ最高♡

ブツブツ  
ゴゴゴ  
ININI  
ININI  
ININI

ピカッ  
ウカッ  
ピカッ

ほおま...

二ホ昨日お前が  
おはハハハ

二ホ昨日お前が  
おはハハハ

ほろ起きろ  
Xス牛

食ハたうまた  
おまろとして  
せまからな

おまろとして  
せまからな

プロうま。



フロンからだと  
よく見えますよ……  
私達の星が……

隊員……  
「ロー」……

🐱 なかがき 🐱

まんがでした～

セッコかわい～ロボにはもう乗るなよ！  
って私実はあんまりロボットアニメって観たことないので、  
ガンダムとギアスくらいか……？

今回の漫画に出てきたキャラクターは  
ゲームの印象から描かれてるんで  
原作ファンのかたにはもうしわけないです、でも描きたかった！  
レントンくん～あんた萌えすぎだ！  
セッコもキャラ違うじゃんって言われると  
言い返せませんが…ふみみ～

続いてははやさかさんの小説、クライマックスなので！

肉と肉で繋がったまま見つめあう、神夜とシヤオムウ。  
絶頂の後の余韻にひたるかの如く緩やかな深呼吸を繰り返す唇に、もう1つの唇が重なる。

「んふっ、ふわあっ♡ シヤ、シヤオムウっ♡  
♡ は、ふむふっ♡…んちゅっ、ちゅぶっ♡  
♡ んぶあ♡ そんなっ、いきなりっ♡…んっ♡  
♡ ちゅっ、ちゅばふあっ♡…♡」  
「ばかもの♡ そんなほけーっとした半開きの唇で誘われたら、こうしたくなるに決まっておるじやろうっ♡ ちゅっ♡…ちゅぶ、ちゅぶっ♡…んちゅうっ♡」

濡れた唇同士が触れ合って、唾液の糸を引かせながら相手を吸いあう。

シヤオムウが唇を開いて舌を引っ込めると、それに誘われるようにして神夜の舌が口内へと進む。

長い舌がほとんど入ったところで、シヤオムウの舌が侵入者を絡め取り、触手のように蠢く淫靡な器官が競うように相手を舐め尽くしていった。

「んじゅるっ、じゅぶふっ、ちやぶっ♡…ふああ♡…んあっ♡ んきゅっ♡…はきゅふっ♡  
う♡…うふああ♡…あううっ♡…ん♡  
♡…♡♡♡」  
「じゅるっ、じゅっばっ♡…じゅばあ♡…ぐちゅるっ♡♡♡ じゅっ、んじゅうううっ♡♡  
んふえふはあっ♡」

舌を相手に差し込んでいるのは神夜なのに、責められているのもまた、神夜だ。  
ザラつきと滑らかさの両面を備えた舌による奉仕が、彼女の心をより深い夢見心地へと招待する。

「ふあっ♡ はふはああっ♡…♡ わ、わたしっ、こんなにいやらしいキスしちゃってるっ♡…んちゅあっ♡…ちゅぶぶっ、はんむっ♡♡♡」

むううんっ♡ はふっ♡…キスうう♡」

経験豊富な魔性の舌技に翻弄される神夜が逃げるように舌を自分の口内に戻すと、今度はシヤオムウはそれを追いかけて神夜の口内に舌を挿入する。

「んぼぼっ、じゅぶぼっ♡ ほうむっ♡ ううんっ♡♡♡ んむううううっ♡♡ じゅぼっ♡…ぐちゅぐちゅうううっ♡♡♡」

シヤオムウは舌を激しく回転させるように動かして神夜の全てを舐めしやぶり、2人の唾液をぐちやぐちやとかき混ぜていく。

「んっ♡…ぶあっ♡」

どぼっ♡…どぶ、どろおおおっ♡…♡♡♡ ひと通り、舌による陵辱の終わったシヤオムウが唇を離すと、2人の間からは大量の唾液が流れ落ちていった。

「ふあ…♡ あっ、あああう…♡ シヤオムウ…♡ さあんっ…♡ うあああう…♡ はううう…♡」

神夜は半開きの唇から唾液をだらしなく漏らし続けながら、シヤオムウを見つめる。

少し身体を揺らすだけでもこぼれてしまいうなほど涙の溜まった瞳は、その潤いによってキラキラと輝いている。

「好き…♡ じゃぞ♡」

「え…♡ あ、あううう…♡ な、何を、いきなりっ…♡ そんなっ♡ も、もうっ♡ シヤオムウさんったらっ…♡ イヤですっ…♡ あうううううっ♡♡♡」

まっすぐに自分を見つめ返してくるシヤオムウに、神夜の顔は真っ赤になってしまふ。せつかく先ほどまでの痴態によって火照った

身体が冷却されたというのに、また…全身が熱い。

「くっくっ♡ その嘘がつかない顔…♡かわゆいのう♡ さて…♡ このまま入れっぱなしだと、わしが完全に搾りつくされてしまうな♡んっ…♡ふうう♡」

「あっ、ひっ♡ はひっ♡♡♡ おあああ…♡ チ、チンポおっ…♡♡♡ お、おひりっ♡♡♡ んひひひひっ♡♡♡」

ずるっ…♡ずるううううんっ♡ ごぶっ…♡ごぼぼぼっ♡♡♡ 長い間、巨根の収まっていた穴から肉棒が下品な音を立てながら引き抜かれていく。

「んひひひひひひっ…♡だ、だめですっ♡

い、いまオチンポを抜いたらっ…♡おっ♡ おおおおっ♡」

きゅぼんっ！ ごぼっ…♡どぼおっ♡♡♡

とうとう亀頭までも引き抜かれ、栓のなくなった穴からは大量の精液が溢れ出てしまふ。

神夜が肛門に力を入れようとしてみても、まだ上手く閉じることができずに精液は漏れ続けた。

「ああああ…♡ は、恥ずかしいっ…♡ わ、私、こんなっ♡ お尻からあ…♡ 精液いっ♡ あぐっ…♡ぐふうんっ♡ で、出てるうううっ…♡♡♡ あおおお…♡ お尻っ…♡んおっ、ま、まだ…♡シヤオムウさんのザーメン、出てっ…♡いっ♡ え…♡ あ、ああっ♡ シヤオムウ…♡さんっ？」

神夜が尻から溢れ出す濃厚な精液の快感に気をとられている間に、シヤオムウの両手は再び神夜の乳肉へと添えられていた。

「ふっふーんっ♡ ぬしの乳はまだ開発が足りぬからのう…♡ し、しかしっ♡ まだ経験のない乳にこれをするのはわしにとってモウ

ぶりでっ…♡ き、緊張するのうっ…♡ しかも、ひよっとしたら過去最高かもしれん乳にっ…♡ 765年も生きてて本当に良かったっ♡♡♡

「え、あっ、な、なんですかつ…♡ 私のお…♡ お乳にっ、な、何をっ…♡」

「言ったじやろう？ ぬしのこのデカくてエロすぎるおっぱいは、乳マンコだとな…♡」

肥大した乳首の窪みへと人差し指を押し当てるシヤオムウ。  
期待と不安に両方の乳頭からミルクが更に溢れ出して、指を伝ってシヤオムウの身体へと流れていく。

「あああっ…♡ ああううっ♡ やっ♡ お、おっぱい…♡ おっぱいに、何をっ…♡」

「それはこれからのお楽しみじゃ♡ では…♡ はじめるぞ…♡」

くりゅんっ…♡くりゅんっ…♡くりゅりゅりゅっ…♡りゅりゅりゅりゅんっ♡

「んぎっ♡ きゃっ…♡はふっ♡ んうあ…♡ あああ…♡ さ、先っぼおっ…♡んんっ♡ や、あああ…♡ミルク、またいっばい出てしまいますうううっ♡」

ゆっくりと乳首の先端で弧を描く指。  
神夜自身が射精して自分の身体で浴びた精液と、今も溢れる母乳とが混ざり合って指先は踊るように滑っている。

りゅっ♡ りゅっ♡ りゅうううんっ♡ くりゅりゅりゅっ…♡りゅりゅりゅっ♡ くりゅにゅにゅうううっ♡

「お、おとおおっ…♡ き、キモチ、イイ…♡ただ、指でっ…♡先っぼをっ♡ し、刺激されてるっ♡ だ、だけっ♡ なのっ…♡にいいっ♡♡♡ んあああ…♡♡♡ くひっ…♡♡♡ひあああっ♡♡♡」

「はあはあ……その表情、そりまくるのう……」  
「そんな自分の乳を責められるのが気持ちいいかのう？」

「は、はい……き、気持ちいいですう……」  
「神夜のお乳はあ、こんなに下に膨らんでっ……」  
「こんなに乳首を勃起チンポみたいにしてえ……」  
「こんなにいやらしくてっ……」  
「す、すぐくっ……気持ちっ……いひやっ……んぎやうううっ……」

ぬちや、ぐちゆちやっ……りゅじゅじゅじゅぶっ……りゅぐぐつ、ぬぐちゆりゆぶっ……乳首の頂上にある窪みに合わせるように弧を描いていた指の範囲が、徐々に広がっていく。

「くふふふ……まったく、精液まみれかつ母乳ミルクでこんなにぐちよぐちよにして……」  
「またしやぶりつきたくなるぞこれはっ……ほれほれ……いじめちやるっ……」

「うああああ……さきっほ……さきっほきもひい……さっきのお乳いじりよりもおお……もつと、もつと敏感になってますうう……お、お……お乳の先っほお……み、みるく……いっばい……ふにやああ……く、くひゅう……」

ぬりゆぶぐちやっ……ぐちゆぬりゆりゆっ……りゅぶぶぶ……ぎゅちゆつ、ぬぐちゆりゆぶちゆっ……  
「ただ乳首を指で刺激しているだけだというのに、神夜はかっけない刺激に身を震わせる。勃起しきつたまま蒸えることのないペニスも濃厚な淫汁を溢れさせるばかりだ。」

「ほうれ……神夜よ。よがってばかりおらんと自分の乳首をよく見てみい……もう……こんなに恥ずかしいことになっておるぞ……」  
「え……え？ 何ですか……え？ んひっ……えはああ……」

乳肉の快感に瞳をあらぬほうへと向けていた

神夜は、シャオムウによって刺激され続けている肉の突起へと視線をうつす。

「ええええ……う、うそっ……そんなんっ……そんなことがっ……」

ぐちよつ、ぐちよつ、ぐちゅううううっ……ぐぬじゅちよつ……ぐちよおおおおっ……乳首の表面を指で刺激しているだけだと思っていた神夜は、驚きに目をいっばいに見開く。

「乳首の窪みを指が刺激している……それ自体は思った通り。」  
「だが……その、窪みはシャオムウの指を半分近くまで飲み込んでいた。」

「んああああ……こ、これはっ……これはああああ……お、お乳……神夜のお、エッチなお乳にいっ……シャオムウさんの……んひっ……ゆ、指がっ……指がああ……入ってっ……」

「ほうれ……もうここまで広がってしまったぞ……はああああ……んんん……指をきつうく締め付けてきて、きゅーとした指触り……いい感じじゃ……」

シャオムウの指技によって、神夜の乳肉は未知の領域……乳腺を広げられてしまっていた。

「んひやああああ……だ、だめええ……シャオムウさん……そ、それ以上……お、お乳が、お乳の、乳首が……んあああ……乳首チンポがあああ……」  
「おやあ……こんなことになっても、まだ乳首チンポなどと言うのかのう……じゃあわからせてやるとしようか……ぬしの乳首はオスじゃなく、ダラダラと濃厚ミルクを垂らすメスマンコ乳首だということのう……このくらい慣らせば、もうイケるじゃろっ……」

「え、慣らす？ イケるっ？ え……えっ……なにをっ……」

シャオムウは、既に第二関節まで乳首へと入り込んでいた指をいったん引き抜いてから、すぐに改めて勢良く押し込んでいった。

「ず……りゅっ……ずちゆ……ずちゆりゅうううんっ……」

「おっ……おっ……おおおおっ……あ、あへ？ お……か、はっ……んおっ……おっ……おおおおおおおお……おおお……おおお……んおう……おおう……おおう……おおう……」

「おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……おおう……」

「はああああ……ほおれ、どうじゃ……ぬしのエロ乳マンコは……んああ……この指に張り付く肉の感触うう……指でもっ……こちまでイキそうじゃっ……」  
「うああああ……乳首……お乳がっ……お乳がシャオムウさんの指でえっ……ひっ、広げられてっ……お乳でっ、指を飲み込んでますうううう……」

とうとう指は根本まですっぽりと乳肉の中に隠れてしまった。

指自体が乳肉に埋もれるのは、神夜も先ほどの陥没乳首にされたときに経験はした。

「だが……これは、それとは明らかに性質が違う。」

「こ、これがっ……お乳おまんこおっ……うあああ……さっきまでこ、これっ……チンポだったの……この恥ずかしいチンポお乳がっ……おまんこ……わ、私、胸までオチンポとオマンコをもってるっ……オチンポとオマンコ兼用のっ……フタナリお乳にされてるっ……」

「ほおくれえ……しっとりとした中の肉が指に

吸い付いてきてっ……ん、ふうう……母乳ミルクがたっぷり乳首の中もぐちよぐちよじやのう……」

ぬりゆぶつ、ぬぐちゆつ……ぬぐちゆぬるっ……じゅぬつちゆつ、じゅぬぬつちゅうっ……

「指の抜き差しを繰り返せば繰り返すほど、その動きにかき出されるようにして母乳が外へとあふれ出る。」

「ほっ……おごおお……んおお……ほ……ほひい……いひあ……うあああ、シャオムウさんに、わ、わたしの……私の大切なお乳……ち、乳首……広げ、られええ……えひい……」

「このでかく膨らんだ乳首と乳輪にわしの指一本では細すぎるのう……んくく……」  
「熱によって乾きそうになる唇を舌で何度も舐めまわして潤しながら、シャオムウが笑う。」  
「そして、人差し指を根本まで挿入している乳首に中指をあてがう。」

「あ……あああ……ま、まさか……そ、そんなあ……だ、だめ……えええ……んぎう……はっ、ぐむう……うぐ……くひあああ……」

「ぎゅぶぶ……ぎゅぐう……ぐじゅううううううう……あつという間に狭い穴は押し広げられ、2本目が侵入してしまった。」

「お、おおお……おほっ……おおん……ゆ、指……指がっ……は、入ってますううう……も、もう一本、お乳に入ってますううう……く、くひっ……ひくっ……んおおお……」

「お、おおお……おほっ……おおん……ゆ、指……指がっ……は、入ってますううう……も、もう一本、お乳に入ってますううう……く、くひっ……ひくっ……んおおお……」



ぬうぶっ…ぬぶぼっ、ぬぶううぼっ♡  
ぬっ…ぬぐちゅ、ぐちゅううっ…♡  
ただ前後に指を動かすだけで鳴り響く卑猥な  
音も、倍に増えているようだ。

「んんんっ♡ キツキツじゃのおっ…♡ で  
も、まだ入らぬことはない…かのう♡」

シャオムウは2本挿入している穴に、さらに  
くすり指までもあてがう。

「えひやああっ♡ や、やああっ♡ やめっ…  
…いひっ…ひぐううんっ♡ だめですっ、  
シャオムウさん…それ以上、わ、私  
の♡ 私のお乳い…広げたらっ♡ 広げた  
らああっ♡」  
「むふっ♡ 広げたら、どうなるのかのう♡  
シャオムウ、このエロすぎる変態お乳に興味津  
々じゃっ♡」

にっこり微笑んで、3本目の乳肉の穴へと指  
を滑り込ませていく。  
先に挿入してある2本の指で少し開いて道を  
作り、そのレールへと3本目を乗せて進ませる  
…。

ぐっ、ちゅううっ♡ ギゅちっ…ギゅちっ  
ゅっ♡ ギゅちゅっ♡ ぬぐっ♡ ギゅちゅ  
うううっ♡  
「おっ、おううっおっ♡ おほおほおほおっ  
…♡ あっ♡ かっ♡ かはああっ…♡  
や、やあああっ♡ 3本、入るっ♡ 入る  
うううううっ♡ お、お乳が…広げられ  
た乳首がっ、飲み込んでっ…んんんううおっ♡  
おほおほおほおほおっ♡」

ぎよぶっ♡ ギよぶっ…ギゅちゅぐちゅ  
うううっ♡  
とうとう、3本の指は根本まで神夜の淫乳の  
中に埋没してしまった。

「あっはあっ♡ 指がぎゅうぎゅう締めつけら  
れておるわ♡ どうじゃ♡ 自慢のエロおっぱ  
いを開発された気分は♡」

「ああああおほおほ♡ おおおうっ…♡  
おっ…おほあああっ♡ お乳っ♡ お乳  
がああっ♡ 私のお乳いっ…♡ んぎゅう  
うううっ♡」

「ふむ♡ きくまでもなかったのう♡ じゃあ  
…もつともつと気持ちよくしてやるとしよ  
うぞ♡」

ぐちゅぬっ♡ ギゅちゅっ、じゅぶぶっ…  
ぬぶりゅっ…ぐちゅりゅっ♡  
シャオムウはもう片方の乳首も同じように指  
を挿入し、ピストン運動をはじめた。

「はひやああんっ♡ う、動かしちゃっ  
…動かしてはああっ♡ 動かすのっ♡ だ、  
だめええええええっ♡ お乳がっ♡ お乳が  
あああ♡ お乳がオマンコみたいに広げ  
られてっ♡ 敏感すぎるのにいいいい♡  
い、いまっ、いま刺激したらっ…んぎっ♡  
ひやへえええええっ♡ あっ、おほおほ  
っ♡ おっ♡ おううううっ♡」  
「ふふふっ♡ 母乳ミルクおかげで、ぬるぬ  
るのぐちゅぐちゅでっ♡ 指がするする滑っ  
ていくぞっ♡ まったく、爆乳のままでミルク  
まみれでっ、乳くさい娘じゃのうっ♡」

ぬじゅぼ、じゅぼじゅぼっ…ギゅぶぶっ、  
ぶじゅっ…じゅぶぶ、じゅぶぶっ♡  
乳腺はかなりきつく締まっているのだが、た  
った今シャオムウが言ったとおり、母乳がその  
滑りを助けている。  
愛夜のような系引く濃厚さをもつ母乳がぬる  
ぬると指に絡みついて2人の女の身体を粘液で  
繋げる。

「んうひっ♡ いひあっ…あっおほおほ♡  
しゅごいですうううっ♡ お、おっぱい…

…お乳いっ♡ 私のお乳っ、こ、こんなにっ♡  
こんなになっ♡ こんなにすごいひいひい  
いっ♡ さっきまでチンポみたいに固く勃  
起した乳首だったのに…♡ い、いまは  
あっ♡ シャオムウさんの指に犯されてえ…  
ぐちゅぐちゅになった♡ おまんこお…♡  
お乳まんこですうううっ♡」

「では、この乳まんこのメス味を堪能するとし  
ようかのう♡」

そう言った途端、彼女は片方の指を一気に引  
き抜いた。

「んぎっ♡ お、おほおほおほおほおっ♡  
いきなり抜いたらっ…おああっ♡ はがっ  
…んぎやひいひいっ♡ お、お乳っ♡  
お乳でるうううっ♡」

びゅじゅうううううっ♡ びゅぶびゅぶ  
うううっ♡  
栓を抜かれた肉穴は、今までの刺激でたっぶ  
りと内部に作られた母乳を吐き出す。  
その勢いと濃さは、まさしく射精。  
「おおっとおっ♡ もったいないっ…あぶむ  
っ…んぐんぐううううっ♡」

「んごっ…ごっくっ、ごくんっ…ごく  
ううんっ…んぐっ♡ ふはあっ…♡ なん  
じゃこれはっ♡ こんなに濃ゆい母乳、飲んだ  
ことがないぞ…♡ んぐっ…つふああっ♡  
じゅるるううっ♡ 搾りたてえっ♡」

「んあああっ…♡ 飲まれてるうううっ♡  
ま、またシャオムウさん、神夜の恥ずか  
しいお乳ミルクを飲まれてるうううっ…♡

さっきよりもお、もつともつと濃くなってるの  
にいっ…♡ んぎひっ♡ 喘むの、だめええ  
ええっ♡」

「ふふ、甘噛みするとジューシーな肉汁が溢れ  
てくるのうっ…♡ じゅじゅっ、んじゅるじ  
ゅっ…♡ んじゅうう…さあて、中の味  
はどうかのう…♡」

「ずちゅ、ずちゅぬるううううっ♡  
乳首の先端にある窪みに舌先を押し付けて、  
そこから内部に滑り込ませる。  
いくらきつい穴だと言っても、1度開けてし  
まえばあとはどうにでもなる。  
ずるるるるるるうううっ♡ ずるんっ♡

「んぎやふっ♡ はきゅううううっ♡ かたっ  
ぽは指でぐちゅぐちゅにされてっ…こ、こっ  
ちはあっ♡ 舌が…んあああっ♡ ぬ  
るぬるしたのが、お乳の先っぽをこじあけてえ  
っ♡ あうっ…はあうううんっ♡ 入っ  
てくるうううううっ♡」

「んううう、さすがに舌ではキツキツすぎる  
のう…だが、こうやってぐりんぐりんしてし  
まえば…はああっ♡ 中にこびりついてる  
濃厚ミルクもいただきじゃっ♡」  
ぐりゅうううううんっ♡ りゅぶりゅぶりゅ  
ぶうううううっ…ぐりゅっ♡  
さすがに指ほどの固さはないので乱暴に肉穴  
を広げることはできないものの、その代わりに  
乳肉内部の粘膜とびったりと張り付いている。  
そのフィット感は、指とはまた違った快感で  
神夜の乳肉を貫くのだ。

「おほおほおほおほおっ♡ かき出させてる  
ううううううっ♡ お乳の穴にこびりついてる  
っ、濃縮されたミルクも、全部ううううっ♡  
舌でじゅるじゅる舐められてっ…ぜ、全部  
っ♡ 全部でちやううううううううっ♡」

「んぐっ、じゅぶぶうう…♡ はああっ♡  
至福じゃのう…このやわらか過ぎるエロお

っばいに顔を埋めながら舌で乳首の中をかきまわすっ♡ やわらかくてぐちよぐちよで、ミルク臭くてっ……さいこお♡♡♡

「んいひいひいひいっ……あお、おとおお……♡ いっぱいミルクかきだされてるのにつ……ミ、ミルクうううっ……また、もっっ、いっぱいっ♡ で、できちゃうううっ♡♡♡」

「ずちゆるっ……ずるぬるずるうううっ……♡ ぐちゅ、ぐちゅぐちゅうううっ……ぬぐちゅ♡ 舌でかき回している間も、片方の乳腺を指で責め続けることも忘れない。」

「シャオムウによって開発された2つの肉穴はもう完全に性器として機能していた。」

「ほおおおおおおおおっ♡♡♡ ひゅごっ……しゅごいですうううううっ♡♡♡ わ、私っ、お乳で何度モイってますううううっ♡ 最初から、ずっと、何度もおおおっ♡♡♡ お乳イキが止まってくれないんですうううっ♡♡♡ 今まではあ、乳首チンポをいじってお搾りしてイクだけだったのにいっ……♡ 乳首チンポを乳首おまんこにされてイクことまで覚えてえええっ……んあああっ♡♡♡ またっ♡♡♡ またいくうううううううっ♡♡♡ ンおおおっ♡ で、でりゅうううううっ♡ お乳がっ♡♡♡ お、おっおっ♡♡♡」

「びゅちゅぶちゅびちゅあああっ♡♡♡ びゅちゅちゅ、びゅちゅぶちゅあああっ♡♡♡ 粘度の高い母乳を溢れさせながら何度も背を仰げ反らせて絶頂を味わう神夜。未知の快楽が押し寄せるたびに、彼女の肉はその淫欲に狂う。」

「んふふ……ずるじゅはっ♡♡♡ じゅぶはああっ……ふあうっ♡♡♡ ぬしが乳首まんこからビュクビュクと射積みたいにもミルクを飛ばすから、とても飲みきれぬわ♡」

「シャオムウが舌を引き抜いて乳肉から顔を離

すと、唾液と濃縮ミルクの混ぜた粘液が糸を引く。

「さて、ミルクの味もたっぷり堪能したし、また指で両方の穴をぐちよぐちよにしてやるうかのう……ちゅぱっ、じゅるじゅっ♡♡♡」

「シャオムウは挿入していないほうの指に舌を這わせながら神夜に告げる。」

「……あ、あの……いい……ですか……♡」

「ん？ なんじゃ？」

「シャオムウさんはあ……わ、私のこの恥ずかしいお乳をお……お乳まんこだと言いましたよね……♡」

「うむ、言ったぞよ」

「で、でしたら……あ、あの、その……」

「一点を見つめる神夜。その視線の先にはシャオムウの巨根があった。」

「たく固く、グロテスクにいぎり立ったままの肉棒。その素晴らしいさは、神夜も先ほど尻穴で堪能したばかり。」

「なんじゃ？ ちゃんとハッキリ言わぬとわからぬのう」

「もちろんシャオムウは、神夜の視線がどこに向けられているかはわかっている。」

「あ、あのっ♡♡♡ あのおっ……♡ 私のお乳が本当にお乳まんこだというのでしたらっ……♡ ちゃ、ちゃんと、私に自身にわかるようにっ……それを……証明っ……♡ して♡ くださいあいつ……♡♡♡」

「トロリと、濃厚な白濁が欲情しきった乳首から滴り落ちる。」

「も、も、私のお乳まんこ……うずいて仕

方ないんですうううっ♡♡♡ もっ、もっ、いっぱいお乳の気持ちいいことをしてほしいっ♡♡♡ もっとお乳の気持ちよさを知りたいっ♡♡♡ もっとお……もっとお神夜の大きくだらしないスケベなお乳まんこでイキまくりたいっ……♡♡♡ だ、だからっ……♡♡♡

「シャオムウさんの、そのふっといおチンポをおっ……♡ 私のお尻の穴にさすっほ入ったばかりのそのおチンポおっ♡♡♡ 私、このはしたないスケベマンコにいっ……♡ お姫様なのに節操のないお乳まんこにっ……♡♡♡ く、くだ……さい……♡♡♡」

「愛しそうに熱く潤んだ瞳で巨根を見つめながら、神夜がねだる。」

「シャオムウにとってそのおねだりに対抗する手段などないし、そもそも抗う理由もない。」

「いいのこのう……♡ わしのチンポは、見てのとおり指や舌とは太さがまるで違うぞ♡♡♡ それはぬしも尻穴でわかっておるだろう♡」

「だから、ですうううっ……♡♡♡ も、もお、このお乳のはじめてのおチンポはあ、あのぶっ……♡♡♡ お尻の奥までずっぽり入ったあのチンポじゃないとお……♡♡♡ この、今もビクンビクン脈打って先っぽから精液交じりのおチンポ汁をドクドク溢れさせてるおチンポじゃないとお……♡♡♡ イヤですううううっ♡♡♡」

「もはや神夜の心のリミッターは、シャオムウの手ほどきによって完全にはずれてしまったようだ。」

「今ここに居るのは、神楽天原の姫ではなく、ひたすら乳肉と肉棒の快楽に溺れる淫肉奴隷。」

「ああもう！ もう！ もうっ♡♡♡ このエロかわいいドスケベ姫めっ♡♡♡ 乳肉でチンポを誘惑するようなエロ姫は、望みどおりわしのチンポでたっぷりとその乳まんこにオシオキしてくれようぞっ♡♡♡」

「んあああっ♡♡♡ 熱い……♡ ああ……♡♡♡ シャオムウさんのっ♡♡♡ 勃起チンポお……♡♡♡ チンポおっ♡」

「ふ、ふふふっ……♡ わしの亀頭のほうがぬしの乳首よりでかいというのに……♡」

「まずは先端同士を押し付けてお互いの感觸を楽しむ。ぬりゅううう……ぐぬりゅっ♡♡♡

「シャオムウは片方の乳肉から中指を引き抜いて、巨根を突き出しながら立ち上がる。」

「指どころか、彼女の華奢な腕よりも太いその肉棒は神夜への期待で先端から根本まで愛液に濡れ光っている。」

「んあああっ♡♡♡ 熱い……♡ ああ……♡♡♡ シャオムウさんのっ♡♡♡ 勃起チンポお……♡♡♡ チンポおっ♡」

「ふ、ふふふっ……♡ わしの亀頭のほうがぬしの乳首よりでかいというのに……♡」

「まずは先端同士を押し付けてお互いの感觸を楽しむ。ぬりゅううう……ぐぬりゅっ♡♡♡

「ふあああっ……♡♡♡ すごいっ♡♡♡ シャオムウさんの巨根おチンポおっ……♡♡♡ こんなにぶっ……♡♡♡ おチンポが、私のお乳に……♡♡♡ これからっ……♡♡♡ 本当につ♡♡♡」

「ふ、ふふっ♡♡♡ ふふっ……♡♡♡ そ、そうじゃっ♡♡♡ 今からあ……♡♡♡ わしのチンポがっ♡♡♡ チンポがああっ♡♡♡」

「シャオムウの声もいつのまにか神夜と同じように震えていた。」

「それもそのはず。シャオムウも緊張しているのだ。」

「経験そのものは豊富でも、神夜の肉体はその経験があったとしても緊張してしまうほどの逸材。」

「おそろくは……今までで最高の肉体。」

「んあああっ♡♡♡ 固くなってる亀頭がぐりぐりっ♡♡♡ 乳首を押しつぶしてますううううっ♡♡♡ ああ……♡♡♡ こんなにぶっ……♡♡♡ も、もうすぐっ♡♡♡ お乳にっ……♡♡♡ お乳まんこにいっ……♡♡♡」

「い、入れるぞっ♡♡♡ 入れてしまっぞおっ♡♡♡

「い、入れるぞっ♡♡♡ 入れてしまっぞおっ♡♡♡

「い、入れるぞっ♡♡♡ 入れてしまっぞおっ♡♡♡



わ、わしがっ、わしがあ……♡ わしの極太  
フタナリチンポがあっ♡ エロ乳首をこじ開け  
るうううっ♡♡♡

ペニスのめり込む魅惑の淫肉めがけて、シャ  
オムウは腰をゆつくりと突き込んだ。  
ぎゅりっ……ぎゅぶ、ぎゅつぷりっ♡♡♡

「んおおっ♡ おっ♡ おっおおおお♡♡♡  
んぐうあああっ♡♡♡ か、神夜のお乳いっ  
……♡ 乳首いいいいいっ♡♡♡ ぶっといチ  
ンポより小さいのにな……んおおおっ♡♡♡  
先っぽの窪みにオチンポがめり込んで……  
ひ、広げられてるうううううううっ♡♡♡  
んくっ、ひゃっ……ふぐううう♡ はひゃっ  
ぐうううっ♡♡♡

「くうううんっ♡ き、キツキツううう……  
でも、しっかり開いておるぞおっ……んっ、ん  
んうううううっ♡

ぎゅぶぶぶっ、ぎゅつぶつ、じゅぶぶぶっ！  
乳首を広げる亀頭はとうとうその頭が半分以  
上神夜の乳首にめり込んでしまった。  
しかも……乳首も一緒に亀頭で乳肉に押し込  
んでるわけではない。  
乳首の中心から乳腺を開き、その中に巨根を  
挿入しているのだ。

「くふおおおお……ど、どうじゃっ……♡  
くあうんっ……♡ どんどん入ってゆくぞ  
おお……♡

ぐっ……ぐっぎゅっ♡ ぎゅつぐっ……ぎゅ  
うう♡  
こすれる肉の淫らで鈍い音を立てながら、巨  
根が乳肉の内部へと進む。

「お……♡ おおおおおおおっ……♡ おあ  
ああ……♡♡♡ おほああああ♡♡♡ んっお♡  
んおうっ……ほおおううっ♡ んほおおお  
おおおっ……♡ ひ、開いてるっ……♡ わ、

私の、お乳のアナ……さっき開いたばかりな  
のにっ、もう極太チンポで……お乳アナが  
チンポサイズに拡張されちゃってますううう  
っ……おあ♡ ふ、太くてっ……♡ かたくっ  
てっ♡ あ、熱っ♡ 熱うういっ……♡ おち  
んぽおおおお♡♡♡

「あはあ……き、キツいのうっ♡ ほれ、も  
うすぐっ……き、亀頭がっ♡ わしの勃起ちん  
ぽの先っぽがあっ♡♡♡

ぎゅぶぎゅぶっ、ぶぶちゅうっ♡ ぎゅぶぶ  
ちゅううううっ♡ ぎよぶっ♡ ぐぎゅぶう  
うっ♡♡♡  
乳液を含んでしつとりと濡れた肉穴を、極太  
ペニスが拡張していく。  
その挿入によって互いの粘膜が激しく擦れあ  
い、強烈な快感を発生させる。

「うあああああっ♡♡♡ シャオムウさんの  
極太フタナリチンポがあああっ♡♡♡ お乳に  
いいっ♡ おっぱいいいいいいっ♡ おっぱいの  
穴を広げてっ♡♡♡ んおおおおっ♡ おお  
うっ♡ おっおおおお♡♡♡ はひゃあああ  
んっ……♡ お乳にい、チンポをプチ込まれま  
すうううっ♡ か、かぐやのお、大きくていや  
らしいエロお乳はあ……も、もお、チンポをハ  
めるためのアナあ……♡ そ、それもっ♡ 普  
通のチンポじゃなくて、ぶっとして固い巨根勃  
起おちんぽをハメてしまうような穴になっ  
てっ♡♡♡

「くうううううっ♡♡♡ こ、この締め付け  
は……や、やばいっ♡♡♡ カリ首に乳首の肉  
がきつく食い込んできてっ……おあっ……お  
あああっ♡♡♡

ぶるぶると背筋を震わせながらシャオムウは  
乳腺にペニスの愛液を注入していく。  
といても本人がそうしたいわけではなく、  
肉棒を締め上げる快感によって、意図せずと  
愛液が鈴口から飛び出してしまっただ。

「くっ……ふううう♡ こ、このまま、この乳  
にプチ込んで奥まで犯すぞっ……♡ よ、よい  
なっ……♡

「ああああ……こ、怖いですっ……♡ だ、だ  
ってえ……お乳はあ、おちんぽを入れるための  
穴じゃないはずなのにっ……♡ お乳にオチン  
ポをぶち込むなんて習わなかったのにな……♡  
で、でもっ……♡ 怖いのにっ……怖  
いのにな……私の乳首い……すぐくっ♡ き、  
気持ちいいいいいっ♡♡♡ 勃起ちんぽの亀頭で  
ごりごりって拡張されるのっ♡ 気持ちいい  
すううううううううっ♡♡♡ お……願  
いますっ♡ シャオムウさん……♡ この巨  
根おちんぽをもっと奥までプチ込んで♡♡♡  
乳首をプチ開けてっ♡♡♡ 神夜のお乳で射精  
チンポのセンサーの手助けをさせてくださいあ  
いっ♡♡♡ 神夜の乳首っ……お乳い……♡  
お乳マンコを、シャオムウさんのチンポで  
いっばい♡ いっばいっ♡ いっばいっ♡  
犯して……くださいっ……♡♡♡

焦点の合わない瞳がシャオムウを見つめる。  
半開きの唇からは唾液がダラダラ溢れて、胸  
の谷間を濡らしていた。  
「はあっ……はあああっ♡ そんなに可愛くお  
ねだりされたらっ……も、もう、おねーさん我  
慢できぬっ♡♡♡

ぐりいっ♡ ずぼっ♡ ずぼっ、ぐぼっ  
……じゅぼぐぼおおおっ♡♡♡ ぐぬぶっ、  
ぎよぶっ♡ ぐぶぶぶっ♡♡♡  
シャオムウはまるで女の腰を掴むように神夜  
の乳肉を両手で左右から掴み、肉棒を奥へと進  
めていく。

「おっ♡ おっごおおおおおおっ♡♡♡ ん  
おおおおおおおっ♡ 乳首をプチ抜いてえっ♡  
オチンポがもつと奥にっ♡ 奥にいいいい  
いっ♡♡♡ お乳マンコの中までずっぽりチン  
ポがくるううううううっ♡♡♡

「あはあああ……♡ こんなにキツキツなの  
にい、肉の感触は柔らかい……♡ うああ♡  
わ、わしのっ♡ わしのチンポが溶けてしま  
いそうじゃっ……あう♡ はあふっ……♡

怒張を締めつける強さは痛みを感じるほど強  
いのにな、包み込む肉は柔らかく優しい。  
ずぐちゅっ……ぐぬぐちゅううううっ……じゅ  
ぶっ！ じゅぶぶぶっ……ずぶりゅっ♡

「くうおっ……♡ おっ、おっ♡ おおおっ♡  
ほあああああああっ♡ んうぐっ♡ お、奥  
にっ……ずぶぶぶってオチンポ入ってくるう  
ううううう♡ ぶっといのっ♡ かわいいのお  
おおおっ♡ 熱くてビクンビクン脈打ってるお  
ちんぽおおおお♡♡♡

「はあああ……♡ ち、乳まんこ……♡  
エロおっぱいのマンコ穴をわしのちんぽがっ♡  
メスの乳肉にわしのちんぽがっ♡ ちんぽが  
包まれるううううううっ♡♡♡

拡張を繰り返しながらじわじわと奥へ進んで  
いく巨根。  
とうとうそのほとんどが淫肉の中へと埋没し  
てしまった。  
「お……♡ おおううっ♡ ほおおおお  
こ、これはあああ……♡ わしのチンポがっ♡  
この極太がこまで入るとはあああ♡♡♡  
根本は乳首の輪でギチギチに締め上げられてえ  
えええっ♡♡♡ 先っぽはぐちよぐちよの母乳  
まみれの乳マンコ肉にっ♡ ずっぽりハマって  
おるううっ♡♡♡

「あはああああ……♡ お乳マンコがぶっ  
といチンポで広げられてえええっ♡♡♡ おま  
んこお……す、すぐおおおっ♡ すぐっ……お  
まんこおっ♡♡♡ んおおおおっ♡ ほふっ  
……んはひゃっ……ひいっ♡♡♡ ドクドクっ  
てオチンポが脈打ってるだけで、お乳がぶるぶ  
るって揺さぶられてっ……気持ちいいですう  
うううっ……♡♡♡



「モ、モおっ♥ もう我慢できぬうっ♥ お、犯すうううっ♥ このハメあなっ♥ わしのチンポを飲み込む淫乱なメス乳マンコをがっつり犯すうううっ♥♥♥」

「んほおおおおおおっ♥♥♥ ちんぽっ♥ お乳がっ♥…そんなチンポみかたしたらっ♥ お乳壊れちゃいますうううううっ♥♥♥」

「セックスするっ♥ セックスするうううっ♥ わしはあ♥ このいやらしい乳ハメの穴にっ♥ チンポっ♥ 自慢のおお、極大巨根チンポを目いっぱいぶち込んでっ♥♥♥ いっぱいっ♥ いっぱい犯すのじゃっ♥♥♥」

ペニスを隙間なく包む淫肉によって、シャオムウの理性大きく揺さぶられてしまふ。モはや彼女の頭の中には、神夜の肉体を開発することよりもその肉体で自分が射精することしかない。

それを示すように、シャオムウは乱暴に乳穴へのピストン運動を開始した。

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

「えっ…♥ ああおおおおっ♥ だ、だめですっ…♥ そんなに激しく動いたらああっ♥ お乳がっ♥ 私のっ♥ 大好きな気持ちいいお乳おっぱいがあっ♥ こわれるっ♥ ぶっといチンポに壊されるうううううっ♥♥♥」

2人はより高い興奮へと上り詰めていった。

「うひゃあうっ…♥ うおおおおっ♥♥♥ な、なにこれっ♥ なにこれえっ♥ こ、この乳まんこおっ…♥ まんこっ♥ まんこおっ…♥ すごおおおっ♥ わしのチンポをぎゅぢぢぢぢに搾ってっ…♥ おおおおっ♥ おっ♥ おっ♥ おおおおおんっ♥♥♥ 腰がっ♥ 腰が止まらぬうううっ♥♥♥ 搾ってええっ♥ お乳まんこでっ♥ シャオムウのぶっとくて固い凶悪なフタナリチンポを♥ メス肉まんこで搾ってえええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

「えええっ♥♥♥」

巨根が激しく胸震いを起こしながら、肉穴をかきまわす。

自分自身が引き起こしたその刺激によって、シャオムウはあつという間に絶頂を迎えた。

「えええっ…♥ そんなっ…♥ お、お乳を広げるだけでなくっ、射精までっ…♥♥♥ あああ…♥ お乳の中に射精なんてっ♥ あうううっ♥ 精液をお乳の中にっ…♥ そんなっ♥ そんなっ♥♥♥」

「でりゅっ…♥ わしの子種ザーメンでっ♥ 乳マンコを孕ませるうううううっ♥ おおおおおおっ…♥ おっ♥ おっ♥ おっ♥」

ただでさえ巨大な肉棒は、さらにひとまわり以上肥大して神夜の乳腺を広げながら白濁を打ち込む。

どぶぶっぶうううううっ♥ どぶるっ♥ びゅくどびゅうううううっ♥ どぶぶっ♥ びゅっぶうううううううっ♥♥♥

「お…? おおおおお? おひっ…♥ ああああああっ♥♥♥ せ、精液打ち込まれてるうううううううううっ♥ どびゅどびゅって熱いミルクがあっ♥ んあああっ♥ ゴーメンがあああっ♥♥♥ お乳の中にナカダシされてっ…♥ んおおおおっ♥ おっ…♥ おほおおおおおおおおっ♥ 混ぜるうううううっ♥ ゴーメンと母乳が混ぜるうううううっ♥♥♥ おあああ…♥ これがあっ♥ これがお乳マンコの中出しっ…♥ ほおああああ…♥♥♥ 初めての乳セックスで、こんなに濃くてドロドロの子種チンポザーメンミルクをおおおっ…♥ お乳で飲んでるうううううっ♥♥♥ お乳はあ、ミルクをびゅくびゅく出す場所なの…♥ お乳がミルクを飲んでますうううううっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

「んうああ…♥ あぐっ♥ し、搾るっ♥♥♥」

まだ精液が止まっていけないというのに、シャオムウは腰を何度か前後に振って乳穴を貪る。

「んひひひひひひ♥ うああああっ♥ 精液とミルクがぐっちゅぐちゅに混ぜますうううううっ♥♥♥ んおおおお♥ お乳にピストンしてるっ♥♥♥ お乳チンポを広げられてっ♥ お乳まんこにされてっ…♥ そのまんこにドクドクって濃すぎるザーメン注がれてえええっ♥♥♥ 神夜はあ、悪いお姫さまですううううっ♥♥♥ こんなっ♥ こんなっ♥ こんにゃらしい乳ハメセックスでイキまくってますうううっ♥♥♥ で、でもっ♥ でもっ♥ 気持ちいいっ♥♥♥ お乳ハメセックス…♥♥♥ いっっ♥♥♥ お乳にぶっとい巨根をぶち込むのしゅごしゅぎですうううううっ♥♥♥ おかひくなるうううっ♥♥♥ お乳でするセックスが♥ クセになっ♥♥♥ んぐうおっ♥♥♥ いくっ♥♥♥ またいくっ♥♥♥ イキまくってるうううううっ♥♥♥ お乳しゅごいっ♥♥♥ チンポとお乳まんこすっ♥♥♥ いいいいっ♥♥♥ ゆるひてっ♥♥♥ 神夜はオチンポとお乳の大好きなメスミルク製造機なんですうううっ♥♥♥ 本当はお姫様じゃなくてっ♥♥♥ ドロドロの濃い母乳とザーメンが大好きなミルク姫なんですうううううっ♥♥♥♥♥ ごめんさいっ、神夜はザーメン好きの悪いこですっ♥♥♥ おかーさんっ♥♥♥ おかーさんあああ♥♥♥」

「わしもおっ♥ わしのチンポもおっ♥ 乳マンコに搾りあげられて、しごきまくられて♥ 乳センズリされてっ♥♥♥ おかしくなるうううっ♥♥♥ んおおおおっ♥♥♥ おおおおおっ♥♥♥ ほおおおおっ…♥♥♥ だ、だめですっ…♥ チンポから濃厚ミルクをまたシャセイするうううううっ♥♥♥ センズリミルクをどっくどっく♥♥♥ まんこに飲ませるうううううっ♥♥♥」

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥

どびゅるっ…♥ びゅくびゅるうううううっ♥♥♥





奥あいドロドロ濃厚ミルク容器にされてしま  
いますうううううっ♡♡♡

丸太のような怒張を挿入中であるにも関わら  
ず、神夜は内部の体液を混ぜ合わせるように乳  
肉を強く揉みしだく。  
指が食い込むその刺激は抽送している肉棒に  
も伝わってシャオムウを更なる刺激で襲う。

「こ、これっ♡ やめいっ♡…♡ 乳マンコの  
締め付けだけでわしはっ♡…♡ お、おとおお  
おとおおおおおお♡♡♡ てるっ♡ てる  
てるでるうううう…♡ 連続でっ♡ 連続でチン  
ポがいくうううっ♡ 乳マンコに濃厚な精子を  
ナカダシして孕ますうううう♡ んおっ♡ ん  
ほおっ…♡ ほおおおおおおうううう♡♡♡

どびゅくっ♡ びつちやああっ♡ どびゅ  
どびゅどびゅううううっ♡ びゅくっ…♡ どど  
ぶ、どぶどぶううううっ♡♡♡

今まで肉穴の開通は無数に行ってきた経験豊  
富な巨根であるにも関わらず、神夜の前ではま  
るで精液を捧げる下僕へニス。

その献上によって、とうとう神夜の乳肉は両  
方とも爆乳を超える超乳のサイズへと進化を遂  
げてしまった。

「ほおおおああっ♡ あおおおおおおっ♡  
もうお乳の中がっ♡ いっぱいっ♡ ぱいっ♡  
うううっ♡ 母乳搾りを3日我慢した時もちん  
なにパンパンにならなかつたの…♡ 不  
あ、あああ…♡♡♡」  
「ふうううう…♡ さすがにこれ以上は入ら  
ぬなっ…♡♡

ずるるるっ…♡ ずるちゅぶっ♡♡♡  
結合部からドクドクと淫汁の溢れ続けている  
穴から、シャオムウはようやくペニスを抜き取  
った。

そしてすぐに彼女は、自分のペニスを今の今  
まで挿入していた乳首にむしやぶりつく。

「えっ？ ああ♡ あううう…♡♡♡  
「じゅるるるうううっ…♡ じゅるっじゅっ…  
じゅぞぞっぞっ…♡ ごくんっ♡ ごくごくんっ…  
…♡ じゅぞぞぞぞおっ♡♡♡

自分の精液と神夜のミルクとが混ざった淫汁  
を、乳首から搾り出すようにして飲み干すシャ  
オムウ。

喉が激しく起伏しているのを見る限り、その  
量はかなりのものだ。

「んごっ、んごくん…♡ うぶはあ♡ 奥あい  
精子と甘い匂いのミルクがドロドロに溶け合っ  
てえ…♡ ごくごくん…♡ ぶはあ♡ 最高の  
精力剤かつ媚薬になるのうっ♡ これはあ…  
じゅるる、じゅぶっ♡

「お、おとおおおうっ…♡ そんなに吸っちや、  
だめですうううっ♡♡♡ 搾られるっ♡ 搾り  
出されるうううううっ♡♡♡

ずるるる…♡ ずりゅううんっ♡ ぬぐっ♡  
ずりゅうりゅうううっ♡♡♡

唇の吸引によって乳首の穴を粘液が通り抜け  
ていく快感に神夜は肩を震わせて悶える。

「んぐんぐううう…♡ ぶはあ♡ さて、  
こつちの味も…♡ んっ♡ ちゅじゅ…  
じゅむむふううっ♡

片方の大部分を飲み干したシャオムウは、残  
ったもう一方にも口を付ける。

「んうううううっ♡ ぜ、全部う、飲んじや  
…♡ だめ、ですうっ♡ わ、私の分も♡ 私  
にもお、おっぱいと精液の混ざった濃厚ミルク  
をくださいっ♡

「じゅぶっ…♡ おつと♡ これはすまぬ♡  
あまりにこの奥あいミルクがいやらしい味で  
のうっ♡ 自分で全部飲もうとしていたぞう♡  
じゃあ…♡ じゅ、じゅぶっ♡

シャオムウは神夜に口移しをしてやうと、乳  
首を大きく吸って粘液で頬を膨らませる。  
そして一旦乳首から唇を離して神夜の唇と唇  
を重ねようとするが、触れる直前で再び彼女は  
乳首へとしゃぶりついてしまう。

「え？ え？」

精液と母乳を口移して貰えるとはかり思っ  
ていた神夜は、頬を赤らめてとろんとした瞳から  
急に涙に戻されてしまう。

「くふふ。んふえ♡ 口移しで吸いあうのも良  
いと思つたが…♡ わしは巨乳の娘が自分の乳を  
自分で吸うのを見るのも好きなのじゃ♡ だか  
ら…♡ やっぱり胸に戻すうううっ♡♡♡

「なっ！ え？ おおおうっ♡ お…♡ おお  
おおおっ♡ おほごおおっ♡♡♡

びゅ、びゅるるる…♡ どびゅる、びゅくり  
ゅっ♡ ぶちゅううううっ♡

シャオムウは、一度は自分の口内に吸引した  
淫汁を、まるで風船を膨らませるかのように乳  
肉の内部へと戻してしまう。  
白濁が乳首を広げながら逆流していく感覚は  
吐き出す時と同等以上の快楽らしく、神夜は歯  
を食いしばりながら背筋を反らす。

「あっお♡ あおおおおおうっ♡ おほおほ  
…♡ お乳の先っぽから奥までええっ♡ み、み  
るくうっ♡ ザーメンミルクが逆流してっ♡  
戻ってるうううう♡ んおおおううう…  
…♡ おほひいっ♡

「んぶはあ…♡ ほおくれ♡ 全部返してやっ  
たぞ。わしはさっき吸ったこつちの残り汁を楽し  
むから、ぬしはこのたっぷり詰まったザーメン  
ミルクタンクを自分で吸うがよいっ♡

「は、はあい…♡ んちゅっ♡ んちゅんちゅ  
うう…♡ ちゅじゅっ、じゅじゅくむうっ♡ ん  
ふあああ…♡ ああああ…♡ ここ、私のお乳

なのにい…♡ 甘いミルクだけが出るところなの  
にい…♡ い、今はチンポの匂いと精液の味に染  
まつてるっ…♡♡♡ んじゅっ…♡ じゅるじ  
ゅっ♡

「んぐくっ♡ ふあはあ…♡ こつちも、も  
う新しい母乳で中がっぱいになっておるうっ  
…♡ んじゅじゅっ、んむはっ…♡ ごくっ、  
ごくうんっ♡

シャオムウと神夜は、喉を鳴らしながら母乳  
と精液を乳肉から搾り飲む。  
舌で乳首穴をこじあけて、内部にこびりつい  
た精液をも舐めようとするシャオムウと、音を  
立てて自分の乳首を下品に吸う神夜。

「じゅるるる、じゅばばっ…♡ んはぶっ…♡  
はあああ…♡ いっぱいナカダシされたお乳  
のザーメン孕み汁うううう…♡ お乳が巨  
根オチンポからごくごくって飲んだ特濃チンポ  
汁をおっ、私がまた飲み返しちやってますうう  
ううっ♡♡♡ じゅじゅっ、ずじゅるる…♡ じ  
ゅばじゅばああっ♡ うはあっ♡♡♡

「くふふ…♡ かわゆい爆乳女子が自分  
の乳を吸いながらイキまくってる姿は興奮する  
のう♡ ほれ…♡ ま、また♡ わしもこんなに  
なつてしまつたぞ…♡♡♡

びぎっ…♡ びぎびぎっ♡ びくっ♡ どくど  
くんっ♡

先ほどまでの乳肉の連続精液搾りによつてさ  
すがの絶倫ペニスも萎えかけていたのだが、小  
休止を入れただけでももう本来の固さと太さを取  
り戻してしまつていた。

「くくくっ…♡ こんどはチンポ汁を直飲みさせ  
ちやるぞっ♡ ほおら…♡ ぬしの大好きな、固  
くて♡ ぶつとくて♡ 精液の匂をさせて、先  
っぽからダラダラと蜜の漏れているチンポじゃ  
ぞっ…♡♡♡

「あはあ…♡ あ、あああ♡ オチンポ  
お…♡ シャオムウさんのぶつとオチンポお♡











早坂さん小説でした、完結！！  
フロウまも完結するはずだったのに…  
もうちょっとだけ続くんじゃない？  
…いつまでやるつもりなんだ…

はやさかさんからのコメントをいただきありがとうございました、どうぞ！

(^・x・)

こんにちは～、はやさかうたねです  
みてのとおりかわいい生物です  
フロウまはさいしょは1冊で終わるくらいよていだった気もでしたが  
けっきょく3冊目とかになってますよ！？ わーいわーい

そもそもこの本をつくることになったきっかけは、先日おこなわれた  
きぐるみパーティーにて、わたしが着てきたカツパのきぐるみを、  
くまのきぐるみをきたみさくらさんが指をさして笑ったので大喧嘩となり  
くまのきぐるみのみみを片方ぶちってとったらみさくらさんが泣いちゃったので  
なかなおりのためにほんをつくらう、ということになったわけです

などという今おもいついた話はともかく  
えもしょうせつも、どっちも気に入ってくださるとありがたいです  
いっぱいやらしいことがかけてまんぞくでした  
みなさまもまんぞくしてください  
ではでは～ またどこかでおあいしましょう～★

はやさかうたね (^・x・)



え——っ…。  
お、くまみみせっちゃんかわいーね！ラガぬーラガぬー  
挿絵楽しかったぞ、いっぱい描いた～  
小説も大団円でメデタイ！  
マンガもがんばろう…



☺ これは…  
せっちゃんなの…？  
なんかちがうような…  
なんか見て  
描いたやつだった  
気がする…  
まーいーか  
のせちゃえ

☺ コックピットの中ってせま孤独で  
ストレスがたまりまくりそう…  
高校球児みたいなもんかなあ

☺ ふたセッコたん♥  
かあいいよっはうー  
お持ち帰り〜♥♥♥  
ふたなりもいっぱい  
描いてあげたかったです…

●🐱 スパロボK!ミストくん  
ビジュアルがよかったので  
期待してたのですが...  
なんて内向きなコ!!その社交性じゃ  
スパロボの世界は厳しいだろうに...  
なんというか主人公らしくなかったですよね、  
あはーっ●  
●ヴァンさんのほうがかっこよかった!

●🐱 表紙原案です~  
なんか収まりが悪かったので  
今の形に描き直しましたです、  
おっぱいばっかですわねー...  
...まあ好きだからいーか




☺ あとがき ☺

さあラストあとがき～

花粉症のことはもういいとして、  
今みさくらはいろいろ秘密のことやっています、  
前々からやりたいと思っていたことなのでごくがんばっています。  
5月くらいからブログとホームページで公開していきます…  
カツモク&応援よろしくお願いいたしますぞぞ～  
最近好きなことを好きなだけやるようにしています。  
みんな協力してくれるのでうれしい～  
かわいいのいっぱい描くぞぞ、ついてこーい！！

それにしても  
無限のフロンティアの新作は出ないのでしょうか…？  
みさくらはドラゴンボール改RPGで満足できるほど  
人間になっちゃいないんだ！！なーんてなーまかんこーさっぽー  
ではでは ●



# ということで次回 フロウマ 4！？ 死？止？

琥魔 X 神夜マンガ  
完結なるか！？  
モ一結構できてるんだって！  
マジでマジで

……でも夏はオリジナルふたなりゲー  
「朝からずっしり♥ミルクポット」 2を  
全力で作ることになるかも……？  
……ん~~~~つ……

詳細は Web で！ デター!!  
<http://www.harthnir.com/>

フロウマ \*03s

発行：ハースニール  
発行日：第 1 版 2009 年 4 月 26 日  
第 2 版 2009 年 6 月 11 日  
印刷所：ニモ印刷さま

<http://www.harthnir.com/>

18 歳未満の方の購入を禁じます。  
コピー、アップロード行為等ご遠慮ください



[www.harthnir.com](http://www.harthnir.com)







早坂さん小説でした、完結！！  
フロウマも完結するはずだったのに…  
もうちょっとだけ続くんじゃ！？  
…いつまでやるつもりなんだ…

はやさかさんからのコメントをいただきありがとうございました、どうぞ！

(^・x・)

こんにちは～、はやさかうたねです  
みてのとおりかわいい生物です  
フロウマはさいしょは1冊で終わるくらいよていだった気もでしたが  
けっきょく3冊目とかになってますよ！？ わーいわーい

そもそもこの本をつくることになったきっかけは、先日おこなわれた  
きぐるみパーティーにて、わたしが着てきたカツパのきぐるみを、  
くまのきぐるみをきたみさくらさんが指をさして笑ったので大喧嘩となり  
くまのきぐるみのみみを片方ぶちってとったらみさくらさんが泣いちゃったので  
なかなおりのためにほんをつくらう、ということになったわけです

などという今おもいついた話はともかく  
えもしょうせつも、どっちも気に入ってくださるとありがたいです  
いっぱいやらしいことがかけてまんぞくでした  
みなさまもまんぞくしてください  
ではでは～ またどこかでおあいしましょう～★

はやさかうたね (^・x・)



え——っ…。  
お、くまみみせっちゃんかわいーね！ラガぬーラガぬー  
挿絵楽しかったぞ、いっぱい描いた～  
小説も大団円でメデタイ！  
マンガもがんばろう…



☺ これは…  
せっちゃんなの…？  
なんかちがうような…  
なんか見て  
描いたやつだった  
気がする…  
まーいーか  
のせちゃえ

☺ コックピットの中ってせま孤独で  
ストレスがたまりまくりそう…  
高校球児みたいなもんかなあ

☺ ふたセッコたん♥  
かあいよっはうー  
お持ち帰り〜♥♥♥  
ふたなりもいっぱい  
描いてあげたかったです…

●🐱 スパロボK!ミストくん  
ビジュアルがよかったので  
期待してたのですが...  
なんて内向きなコ!!その社交性じゃ  
スパロボの世界は厳しいだろうに...  
なんというか主人公らしくなかったですよね、  
あはーっ●  
●ヴァンさんのほうがかっこよかった!

●🐱 表紙原案です~  
なんか収まりが悪かったので  
今の形に描き直しましたです、  
おっぱいばっかですわねー...  
...まあ好きだからいーか




☺ あとがき ☺

さあラストあとがき～

花粉症のことはもういいとして、  
今みさくらはいろいろ秘密のことやってますで、  
前々からやりたいと思ってたことなのですごくがんばってます。  
5月くらいからブログとホームページで公開していくで、  
カツモク&応援よろしくお願いいたしますで、  
最近好きなことを好きなだけやるようにしてます。  
みんな協力してくれるのでうれしい～  
かわいいのいっぱい描くで、ついてこーい！！

それにしても  
無限のフロンティアの新作は出ないのじゃか……？  
みさくらはドラゴンボール改RPGで満足できるほど  
人間になっちゃいないんだ！！なーんてなーまかんこーさっぽー  
ではでは ●



# ということで次回 フロウマ 4！？ 死？止？

琥魔 X 神夜マンガ  
完結なるか！？  
モ一結構できてるんだって！  
マジでマジで

……でも夏はオリジナルふたなりゲー  
「朝からずっしり♥ミルクポット」 2を  
全力で作ることになるかも……？  
……ん~~~~つ……

詳細は Web で！ デター!!  
<http://www.harthnir.com/>

フロウマ \*03s

発行：ハースニール  
発行日：第 1 版 2009 年 4 月 26 日  
第 2 版 2009 年 6 月 11 日  
印刷所：ニモ印刷さま

<http://www.harthnir.com/>

18 歳未満の方の購入を禁じます。  
コピー、アップロード行為等ご遠慮ください



[www.harthnir.com](http://www.harthnir.com)